

令和6年度（2024年度）第2回東海市健康づくり推進会議 会議録

○開催日時 令和6年（2024年）10月31日（木）

午後2時から4時まで

○開催場所 しあわせ村健康ふれあい交流館 多目的ホール（1階）

○出席者氏名

委員：塚本純子（会長）

原田留美、高橋智子、高木眞子、杉山勝俊、櫛丈一郎、下村厚子、佐藤直子、久野文代、加藤剛、村井亮太、小林洋介、宇佐見真二、富山直輝、花井浩美、久野彰子、大嶋一彰、橘洋子

事務局：健康推進課長 内山貴裕、同統括主幹 柘植由美、

同主幹 長坂友子、同主任指導保健師 大串文子、同統括主任 濱島匡志、

同統括主任 蟹江孝俊、同指導栄養士 新海美奈子、

同主任保健師 佐治かな絵・越千明、同歯科衛生士 尾崎麻衣子

○欠席者氏名 朝倉直子、宝達真志、柿田嘉久

○公開・非公開の別 公開

○傍聴者の数 1人

○議題及び審議の概要

1 開会

2 議題

(1) 令和6年度（2024年度）主な事業の実施状況について

ア 令和6年度（2024年度）主な事業の概要

3グループに分かれ、事務局から資料に基づき、令和5年度の施策評価、今年度の取り組み、上半期の活動結果、課題と今後の取り組みについて説明をし、話し合いを行った後、その内容について発表、意見交換を行った。

Aグループ 【資料4-1-①～③】

資料2 施策名「4-1-① 自分の体をメンテナンスできる人を増やす」
について

● 特定保健指導の初回面接の実施はとてよき取り組みのため、初回面接

を実施している施設を増やすことが、受診率の向上にも繋がると考えられる。また、全国健康保険協会も初回面接を実施していない施設には、実施の働きかけをしている。

- 禁煙希望者のみに絞った市の事業はなく、「保健なんでも相談」にて対応をしているが、たばこについての相談者はほとんどいない。誰にでも目につくような禁煙パンフレット等の掲示の工夫が効果的ではないか。禁煙外来は公立西知多総合病院で実施している。禁煙の効果的な対策は、禁煙区域を増加させることであると考ええる。
- 禁煙サークルは費用がかからないが、禁煙外来は費用がかかる。1人で禁煙を取り組むより、教室などで禁煙を皆で取り組むことが効果的であると考ええる。
- 子どもから大人（親）に「たばこをやめて」と言ってもらうことが、親には効果的ではないか。子どもが禁煙を促す運動があると大人の心に響くのではないか。
- 中学校の保健体育では、喫煙についての学習が内容に盛り込まれている。動画教材が充実してきているため、市への喫煙の健康教育の依頼は減少している。

資料2 施策名「4-1-② 壮年期をがんから守る」について、

- 年配の受診率が高い状況。
- がん検診の周知方法の一つにラインがあり、ラインの登録者数は増加傾向である。これは若い世代だけの登録者数が増えているのか。市のラインは認知していても未登録の人がいる。
- インセンティブがないとラインを積極的に登録しようと思わない。また、行動変容を起こすようなキャッチフレーズも必要である。

メディアスFM放送で啓発はしているが、聴講者は少ないかもしれない。若年層はがんを軽視している。若年層が強く関心をもってもらう啓発の工夫が必要である。健康くじ、ポイント制などを導入するといいいのでは。（健康ポイントは実施している）

- がんは高齢者だけの病気ではないことを周知すること。若年層に響く体

験談、苦労話などをラインに掲載することで、がん検診を受診するきっかけ、行動変容に繋がるのではないかと。

資料2 施策名「4-1-③ おいしく食べ、おもいきり笑えるお口をつくる」について

- 小学校12校中5校の歯みがき指導の依頼は少ないと感じる。学校への歯みがき指導の周知方法に工夫が必要なのではないか。小学校の依頼に合わせ、各クラス、学年毎など歯みがき指導の方法は違う。各クラスの指導になるとマンパワー不足になり限界もある。マンパワーを増やす、また、実施の仕方を工夫して重点的に行わないといけない。

- 6回の歯科衛生士の訪問は、元気な人が多いのか。

→要支援1、2また事業対象者で、比較的元気な方が参加している。「健口体操」を継続実施することで、口の機能が回復することは把握しているが、これを日常生活の一部に取り入れられることが一番の鍵になると思う。

訪問の対象者の口の中の状況はどうか。

→むし歯や歯周病等でひどい状況ではない。口の中に問題がある場合は、訪問時に歯科医院の受診勧奨をしているため、比較的口腔内環境は良い。

Bグループ

施策名「4-2-① 体を動かすことの楽しさを知る機会を増やす」について

- 1回30分以上の運動を週2回以上している人の割合が大幅に落ち込み、今後も推移を注視していく必要がある。コロナ禍以降、より運動をする人・しない人の差が大きくなっていると考えられる。
- 運動のきっかけとして、各種団体（6団体）と連携し、今年度も全9回のウォーキングイベントを計画している。通算5回参加するとオリジナルのピンバッジをプレゼントし、小学生以下の参加者にはとまていぬグッズをプレゼントしている。主催団体により参加者が変動するが、10月の回では参加者が令和5年度100人から令和6年度180人と増加していた。スポーツ課が各小学校に通知したため、初参加や家族連れが

多く参加したと考えられる。ゴミ拾いなどをしながら参加する家族もいた。今後も若い世代も利用できる運動機会として周知や実施方法を工夫し行いたい。

- 大同特殊鋼では「昼休みウォーキング」を実施しているが、一部から「業務ですか。」という声が挙がったりする。現在、若手の体力低下が目立つため、令和7年度からはさらに歩く機会を作る予定としている。
- カゴメではウォーキングキャンペーンとして携帯アプリを導入し、ランキングや歩数に応じたポイントなどを実施している。これにより、運動だけでなく共通の話題として立ち話になったりと、コミュニケーションも増えている。大同特殊鋼でもアプリ導入しているが、社内工場持ち込み不可であり、持ち込み可能な携帯などを全員支給する案も考えている。

施策名「4-2-② 運動に取り組みやすい場を充実する」について、

- コパンススポーツクラブ東海の高齢者への利用補助事業は、前年度と比較し1～2割利用増加しており、猛暑の影響がみられる。
- トレーニング室では6月までは利用者が増加したが、真夏の時期は暑すぎて来所自体が難しく、10月涼しくなってから利用者が増加している。
- 民間施設も良いが、高齢者にとっては身近な市民館・公民館の方が利用しやすいのでは。健康づくりリーダーも各地域で活動しているため、こうした地域で運動できる場の紹介も行うと良いのでは。
- スポーツ推進員として「モルック」や「カバディ」などのスポーツを推しているが、学校からチラシなどで案内をしてもらっても周知や集客が難しい。広報やホームページで周知しても個人に情報を取ってもらうことが難しい。名古屋市緑区では回覧で周知に成功している事例があるが、小さいグループ単位で身近な情報を提供することが大切ではないか。また、周知の際のキャッチフレーズも大切である。

施策名「4-2-③ グループ（企業・団体）活動を推進する」について、

- 「とうかい健康チャレンジ事業」では、内容としては愛知県が開発した「あいち健康マイレージ事業」に参加し、運動や食生活をはじめとした健康的な取り組みを行うとポイントが増えるアプリを活用した取り組みを実施

している。

- 健康経営が事業所では広がりを見せており、いきいき元気キャンペーン事業として、アプリや企業への健康度調査や訪問などを行っている。商工会議所や協定を結んでいる明治安田生命などと協働し、健康セミナーや情報交換の場を設定しており、各事業所で健康経営に関する取り組みの強化を図ったりもしている。
- 健康経営は企業にとっても大切な評価のもとになっており、新入社員の獲得のためにも必要になる。また、「ホワイト500」という禁煙率や教育の回数などのチェックにより認定されるものは株主の評価にもつながるものであり、SDGsのように企業としては取り組みが必須のものとなってきている。こうした取り組みにより企業内で健康的な経営の常識が規定される一方、ギャップも生まれる場合がある。そのため大企業では専任担当がいるほどであり、中小企業でも体制づくりが必要となっている。東海市としても、こうした基準を利用して健康づくりの推進をしていくと良いのではないかと考える。
- 健康づくりリーダーにも、企業から健康体操をやってほしいと依頼がくることがあった。こうした健康に対する意識が高い企業は多くあるが、その意識の差はそれぞれあるのではないかと考えられる。

Cグループ

施策名「4-3-① 適量やバランスを意識する機会を増やす」について

- トマト健康プロジェクト事業では、R6年度はカゴメ株式会社との「トマトde健康まちづくり協定」締結から10周年の年であり、10周年記念事業としてトマトレシピコンテストを開催し、オムライスやトマト給食メニューなど39点の応募があった。また、小学校への出前講座、トマトフェスティバルを実施した。
- トマトが前面に出ているが、食事のバランスへの取り組みは他にも実施していると思うがどうか。

→毎月、広報の裏表紙に野菜を使ったレシピを掲載したり、クックパッドを使ってレシピを配信したりしている。一日1000件程のアクセスが

ある。

- レシピ紹介を広報やクックパッドで実施しているが、スーパーの野菜販売コーナーにレシピを置かせてもらうのもよいのではないか。
- 食生活改善推進委員がアンバサダーを取得して、オムライス教室を小学生からシニア男性まで幅広く実施している。
- ベジチェックを親子で体験してもらう機会があった。家族でチェックできることで、家庭での食事や給食について話題になり意識付けにつながる。
- トマトジュースのでる蛇口では、トマト嫌いの子も手にできる。

施策名「4-4-① 交流の場・活動の場を充実する」について、

- 「いきいき百歳体操」の普及を通じた自主活動グループ支援で、栄養士、歯科衛生士、保健師の専門職派遣を実施。その中で、ランチ会を通しての栄養指導では、独居でいつも一人で食事をしている人も、仲間と食事ができることを楽しみにしている人もいる。
- 富木島地区で新規グループの立ち上げを実施。
- グループによっては参加者や世話人の高齢化で、身体機能の低下で活動の場まで行けなかったり、認知機能の低下で家族に止められてしまう人もいる。メンバーが減ってしまい活動が難しくなっているグループもある。
- 実際、長時間座っていられなくなってしまうと、参加できなくなった人もいる。そのようなグループには、どのようなサポートがあるのか。
- 自宅から身近な場所に活動の場があれば、長く通うことができるため、社会参加の場所は増やしていく必要がある。また、担い手の育成も同時に行い、世話人同士も情報交換や相談できるような機会を設ける予定。また、活動の場に来なくなってしまった参加者については、世話人に連絡をいただいて、個別の支援に切り替えているケースもある。

施策名「4-5-① 規則正しい生活習慣を身につける」について、

- 生活習慣については、乳幼児健診での指導が中心になるが、昨今、共働き家庭が増え、親が忙しく子どもをあずけることに必死で気持ちの余裕がな

いという状況がみられる。そのため、集団に向けてより、個々の家庭の事情等も踏まえ個別での話が必要。

- 事業以外にも、自主的な相談もあるか。

→ベビーサロンや個別の電話相談、市内3か所の子育て支援センターでも、随時相談できる体制となっている。

- 星城大学の授業の一環で社会福祉協議会と託児のあるサロンを実施している。母は子どもをあずけ、その時間ひと休みできる。目的は、一時的にあずかることで、母が休め、母の心の余裕ができ、子どもにより良く関わることができる事である。

- 自分の子どもができて初めて子どもを抱く親、結婚して初めて料理をスタートする人など、経験がないまま、結婚、子育てをする人もいる。

- 保育園の子は基本的には共働きをしているが、我が子のためによいことをやってあげたい、と思っている人が多い。そのために情報を得たい親は多く、保育園は、それを支援したいと考えている。子どもの成長発達で心配している保護者には保健師への相談を勧めている。

- 保育園、保健センター、子育て支援センター、児童館など連携して、子ども成長発達や子育てを支援している。

3 その他

- (1) 第3次健康増進計画策定状況について

素案に基づき事務局より説明

- (2) 今後の会議の予定

第3回：令和7年2月13日（木）

4 閉会